

知財高裁におけるパラダイムシフト： 見えない武器としての「技術常識」

現状のシフト

引用文献に明示がなくても、「技術常識等（周知課題・従来当然の前提・設計事項等）」を認定し、進歩性判断を組み立てる傾向が顕著化。

最大の脅威

根拠薄弱な“上位概念化”や“常識の飛躍”には歯止めがかかる一方、「単なる数値最適化」「当業者の設計事項」と片付けられると進歩性維持は極めて困難に。

必須の防衛策

設計事項と評価されるリスクを前提に、「臨界性・反直観・阻害要因・相反関係（トレードオフ）」を明細書へ先回りして構築（証拠化）することが最重要課題。

技術常識の二面性： 味方となる局面と、敵となる局面



味方としての技術常識

【作用】 発明や引用発明の解釈（用語・前提条件）を支える局面。

【事例⑤の教訓】 クレーム文言（例：「区分する」）に識別機能を背負わせる場合、明細書にその機能や検証方法の裏付け（事実）がなければ、常識による有利な解釈は得られない。

【防衛戦術】 用語定義や測定前提は自ら明記し、常識の暴走を防ぐ。



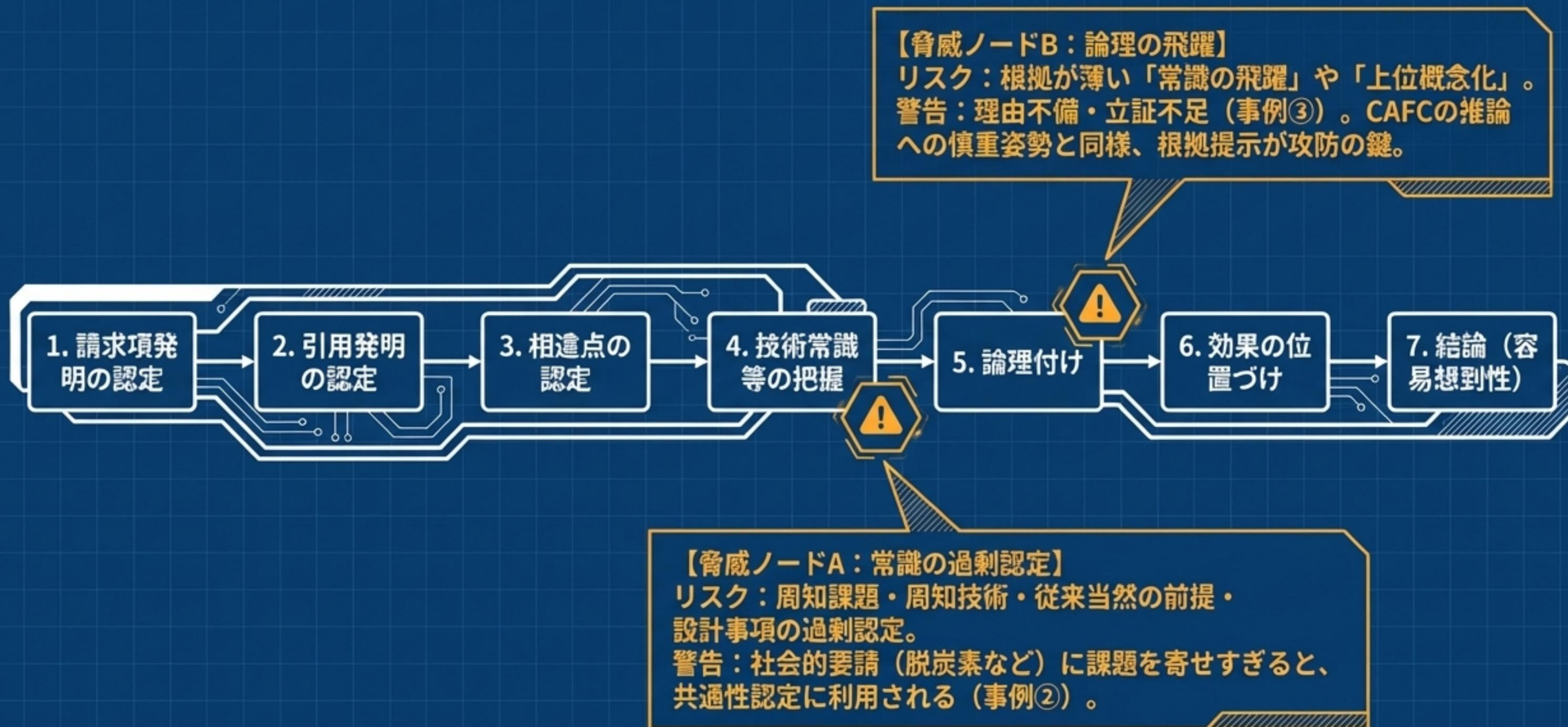
敵としての技術常識

【作用】 相違点を埋め、「設計事項」や「最適化」として進歩性を否定する局面。

【事例①④の教訓】 引用例に数値レンジの明示がなくても、「所望の効果が発揮される範囲での数値調整」と見なされれば設計事項化する。

【防衛戦術】 「阻害要因」や「相反関係」を構造化し、単純適用を拒絶する。

進歩性判断の論理パスウェイと脆弱性ノード



グローバルな視座：日米欧における「常識」の立証ハードル



日本 (JPO / 知財高裁)

技術常識等＋理由付記

審査・審判は職権で技術常識を認定できるが、論理の飛躍（理由不備）や根拠薄弱な上位概念は取り消される（事例③）。争点化した場合の証拠化が鍵。



欧州 (EPO)

Common General Knowledge

当事者間で争いがあれば立証（教科書・規格等）を要求。“notorious”（自明）なもの以外は、厳密な裏付けが求められる。パラメータ選択での「意外な効果」立証が中心。



米国 (USPTO / CAFC)

Common Sense (KSR / Arendi)

柔軟な適用は認めるものの、欠落要素をcommon senseで埋める推論には極めて慎重。確実な証拠と理由付け（Teaching Awayの不在など）を要求する。

知財高裁8事例の統合：明細書を破壊する4つの脆弱性アーキタイプ



数値最適化の罠 [事例①, ④]

【メカニズム】数値変更を「所望の効果を発揮させるための通常調整」とみなす。

【防衛策】臨界性の証明と相反関係(トレードオフ)の提示。



課題の過剰抽象化 [事例②, ③]

【メカニズム】課題を「小型化」「効率化」「エコ」等に一般化し、他分野からの適用動機付けを作る。

【防衛策】課題への「技術的制約・前提条件」の明記と主課題・副課題の複線化。



設計事項と代替の容易性 [事例⑤, A, B]

【メカニズム】既存の選択肢からの「単なる形状選択」や「単純置換」とみなす。

【防衛策】引用発明があえて別解を採用した「設計意図」の逆算と、代替による効果喪失(阻害要因)の実証。



数式・パラメータの一般化 [事例⑥]

【メカニズム】特殊パラメータを、規格等の「前提条件」から一意に導き出せると判断する。

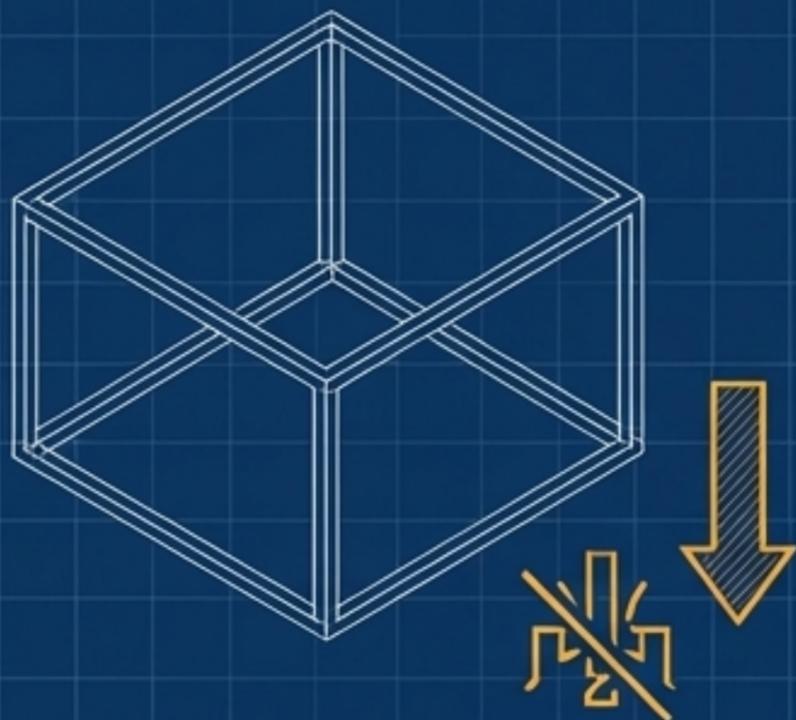
【防衛策】適用条件の限定と、前提変更時における挙動(非ロバスト性)の提示。

判例診断マトリクス：明暗を分けた「致命的な欠陥」と「救済の根拠」

事件 (Case)	アーキタイプ (Archetype)	裁判所の判断 (Stance)	教訓 (Flaw/Grace)
事例① (土木用不織布)	数値最適化	✕	欠陥: 割合増加による効果 (濃さ等) を当業者の常識と評価された。
事例② (燃焼器)	課題の抽象化	✕	欠陥: 脱炭素等の社会要請を周知課題とされ、共通性認定に利用された。
事例③ (ビークル)	論理の飛躍	🛡️	救済: 審決の「小型＝低電力」という常識援用に根拠欠如 (理由不備) を認定。
事例④ (木質床材)	相乗効果否定	✕	欠陥: 複数数値の組み合わせが「一まとまりの手段」と認められず設計事項化。
事例⑤ (光フェルール)	用語解釈・機能	✕	欠陥: 「区分する」の文言から識別機能まで読み取れず (明細書の示唆不足)。
事例⑥ (銅管矢板)	パラメータ	🛡️	救済: 前提規格 (JIS) の存在が、逆に「他例への適用示唆の欠如」を証明した。
事例A (カテーテル)	形状の選択	✕	欠陥: 独自形状も「既知選択肢の組合せ・設計制約内」として阻害要因を否定。
事例B (溶解炉)	単純置換	🛡️	救済: 引用発明の「設計意図」に反する単純置換は困難とし、阻害要因を肯定。

戦略の転換：単なる「説明書」から、先回りして防御する「要塞」へ

説明的ドラフティング (Descriptive Drafting)



- ・発明の構成要素を平坦に並べる。
- ・効果を単一の結論（「～が向上する」）でのみ記載。

【脆弱性】

審査官の「設計事項」「最適化」という後知恵による解体に無防備。

先回りドラフティング (Preemptive Engineering)

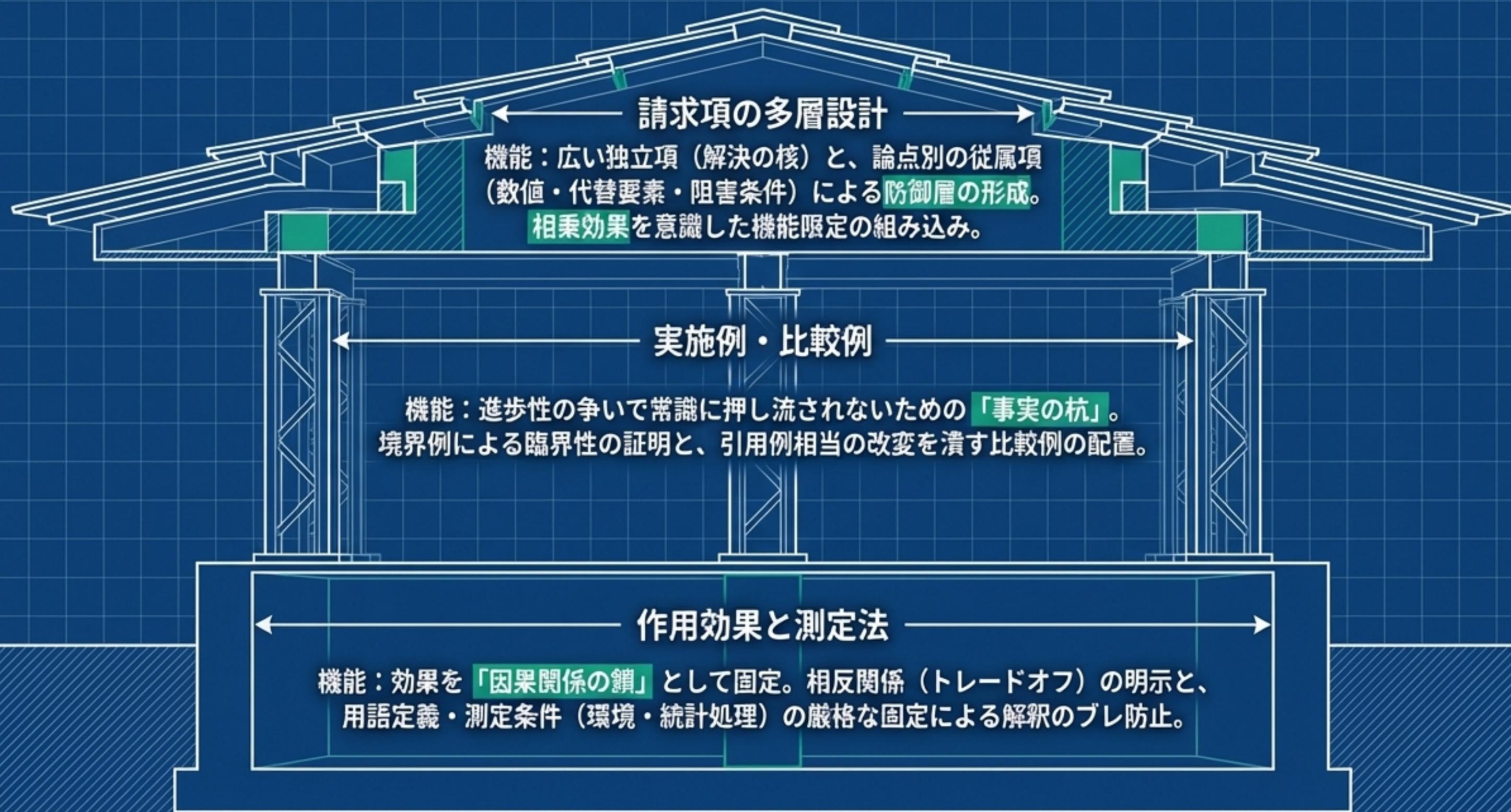


- ・臨界性 (Criticality): 境界線で急激に性能が変わる事実の杭を打つ。
- ・相反関係 (Trade-offs): 「あちらを立てればこちらが立たず」のジレンマを提示する。
- ・阻害要因 (Teaching Away): 当業者が「通常なら避ける」技術的理由を構造化する。

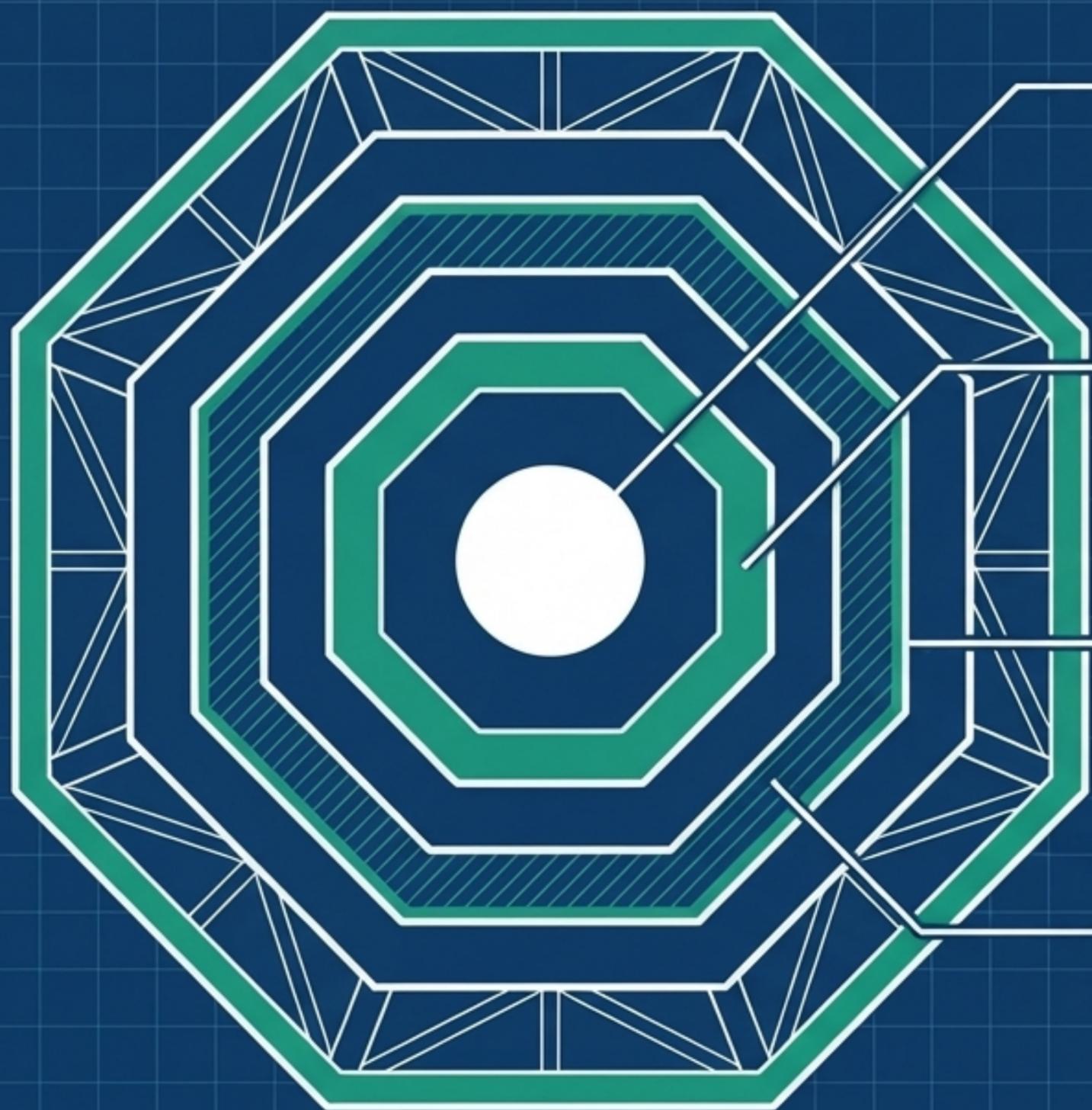
【強靱性】

技術常識による「容易想到性パズル」のピース結合を物理的・論理的に拒絶する。

堅牢なる明細書の解剖図：各セクションが担う防衛機能



クレームアーキテクチャ：主従構造を用いた多層防御バリア



独立項：課題解決の核

単一パラメータだけで勝負せず、「手段の協働関係」（例：A×C）まで書き切る（事例④の相乗効果否定リスク回避）。

防御層1：数値限定の従属項

段階的な数値限定。単なる範囲だけでなく、境界で急に性能が変わる臨界性や、トレードオフを乗り越える限定を含意させる。

防御層2：機能・用語の従属項

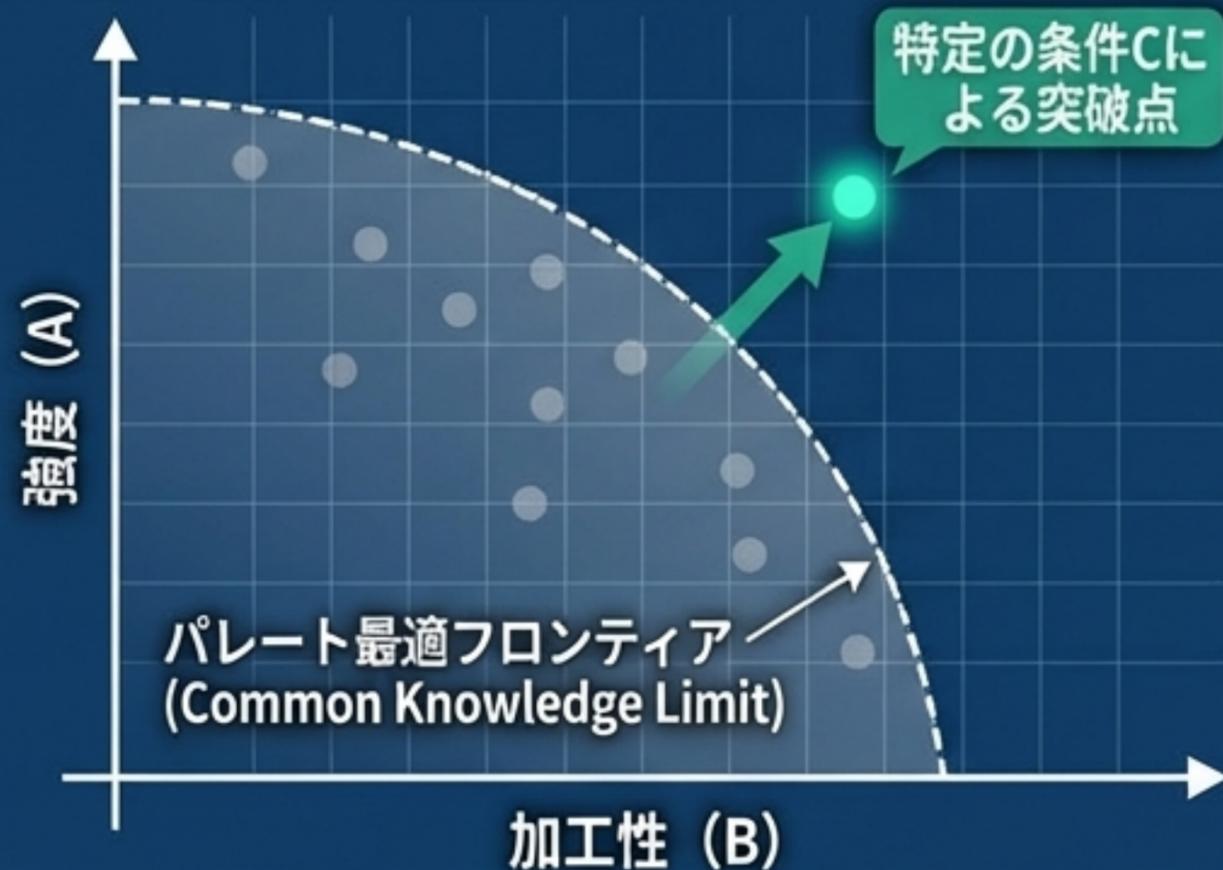
争点化しやすい語（「区分する」等）を具体構成に落とし込む。機能限定は「何をどう測れば満たされるか」の裏付けをセットにする。

防御層3：置換制御の従属項

代替要素を用意しつつ、「その置換が阻害される特定の条件」も併せて従属項化し、単純置換論を防ぐ（事例⑧）。

数値・パラメータの防衛障地：相反関係と臨界性の視覚化

相反関係（トレードオフ）の突破



「通常はA（強度）を上げるとB（加工性）が悪化する」という常識的ジレンマに対し、特定の条件Cにより「両立」させる事実を示す。審査官の「単なる数値最適化」ロジックを無効化する。

臨界性の「断崖（クリフ）」



請求範囲の境界線を越えると、意図した効果が**急激に喪失**する（または悪影響が発生する）現象。境界例を実施例で提示し、数値範囲が「滑らかなグラデーション」でなく「**技術的必然**」であることを確定させる。

実施例の戦略的配置：「常識の改変」を潰す事実の杭

Testing Ground

境界例 (The Boundary Case)



数値範囲の上下限近傍を意図的に測定する。効果が急変するポイントを示し、「最適化」ではなく「臨界性」を立証する（事例①④対策）。

比較例 (The Preemptive Comparative)



「引用例相当の構成」+「当業者がやりそうな常識的改変（強度アップ等）」を実際に作って比較例に置く。常識的改変を行うと所望の効果が得られないことを証明し、動機付けを破壊する。

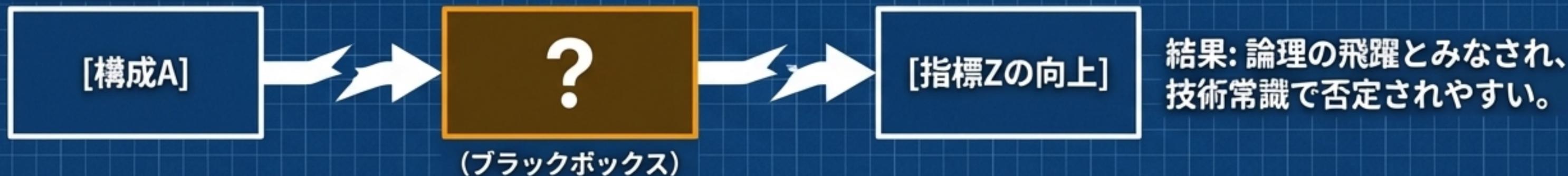
代替手段 (The Poisoned Alternative)



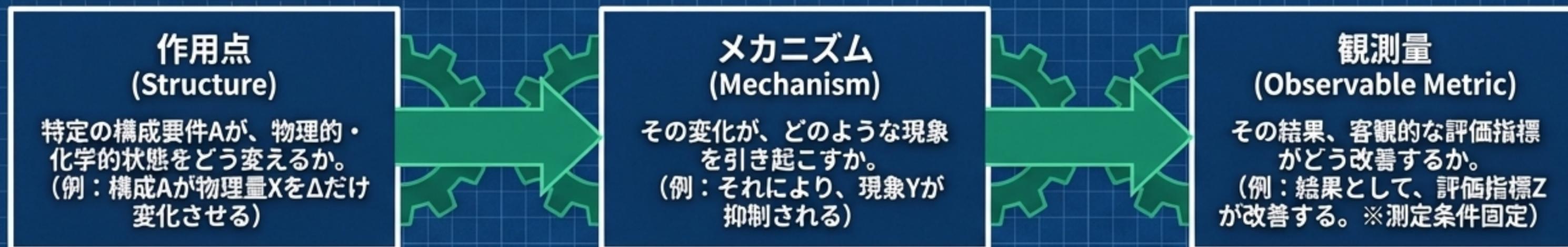
置換部材・形状等の代替案を列举しつつ、「代替すると失われる効果（または生じる副作用）」を分けて記載する。単純置換論に対する強力な「阻害要因の根」を形成する。

「効果」の因果関係チェーン：飛躍のない論理構造

The Broken Chain - Risk



The Fortified Chain - Solution



【教訓】 「割合を増やせば色が濃くなる」ような常識化しやすい効果は主役にせず、因果チェーンの末端にある「予測困難な別の効果」を主軸に据える。

実践ドラフティング・テンプレート：即時実装可能な文例集

Template 1: 独立請求項（相乗効果否定回避）

【請求項1】

～を備え、[構成A]が[構成B]を制御し、[構成C]が[構成D]を…

単体ではなく「A×Cの協働」を明示する

Template 2: 数値限定従属項（最適化回避）

【請求項2】

～において、[パラメータX]がa～bである（ただし、a未満では[悪影響P]が発生し、b超では[悪影響Q]が発生する）。

Template 3: 効果の因果鎖（設計事項化の破壊）

【効果】

[構成A]により物理量XがΔだけ変化し、現象Yが抑制され、評価指標Zが改善する（測定条件：[環境・機器]）。

Template 4: 比較例設計（当業者改変の無効化）

【比較例B】

引用例相当の構成に対し、当業者が想定する設計変更（例：Xの上昇）を実施した結果、[性能P]が悪化することを示す。

出願前ゲートキーパー・マトリクス：最終防衛力チェック

- Gate 1 (課題設定)
課題が「小型化・効率化」で終わらず、制約条件(安全・規格・互換性)が明記されているか？
- Gate 2 (阻害要因)
引用例が採用する方式の「設計意図」を推定し、それに反する改変の困難性を説明できるか？
- Gate 3 (臨界性)
数値範囲について、上下限近傍の「境界例(最低2点)」を実施例・比較例で提示しているか？
- Gate 4 (トレードオフ)
数値範囲が単なる最適化でないことを示す「相反関係」の明記があるか？
- Gate 5 (因果鎖)
効果は「構成→メカニズム→測定指標」の連鎖で記載され、測定条件・用語定義が固定されているか？
- Gate 6 (常識の逆利用)
設計事項とされ得る典型改変に対し、当業者が「敢えてそうしない理由」を用意しているか？

FILING AUTHORIZED

※出願時：J-PlatPatで閲覧可能な形で、提出可能な裏付けデータを必ず社内保存せよ。